

刊行にあたって

近年、歯周基本治療は見直されている傾向にあります。歯周組織再生療法で骨縁下欠損を治すのもすばらしい治療ですが、歯周基本治療で歯周ポケット、さらには骨縁下欠損が改善すれば、それは患者にとっては外科的侵襲の機会が減るというメリットがあります。また、術者側としても、歯科衛生士が自分自身で患者を治癒に導くというすばらしい経験をすることができるというメリットがあります。一度この経験をすると、歯科衛生士という仕事が楽しくてやめられなくなるに違いありません。歯周基本治療は、まさに歯科衛生士のみなさんが最も輝ける場であるといっても過言ではありません。

そのような経験を一人でも多くの歯科衛生士にしてもらいたい、またそのような歯科衛生士を育てる環境を与えられる歯科医院が増えてほしい、そんな思いから、DHstyleの連載「な～みんの臨床力養成講座」は始まりました。その連載は2017年1月号～2018年7月号までの約1年半、全19回に及びました。それをベースに、内容を新たに見直して1冊にまとめたのが本書です。

とはいえ、歯周基本治療をマスターするのは、簡単なことではありません。臨床記録をしっかりと読み、症例の難易度などをよく理解し、そして一つ一つの処置を高い精度で行う必要があります。時には歯科医師よりも患者に近い立場にいる歯科衛生士のみなさんは、患者に寄り添いながら、人となりも理解して付き合っていく必要があります。そのかわりの過程で生まれるさまざまな疑問に、本書はすべて答えられているわけではありません。しかし、臨床記録の読み方、症例の見方など、臨床的な思考プロセスを通じて、歯周病の患者とどう向き合うべきなのかをさまざまな視点から学んでいただけるように、症例を通じてそれらのPointを解説したつもりです。本書を読んで、一人でも多くの方が歯周基本治療の楽しさと生体の治癒力のすばらしさに気づいていただければ幸いです。

最後に、本書を執筆するにあたり、貴重な資料のご提供と多くのご指導をいただいている渋谷区で開業の村松利安先生、いつもご指南いただいているスタディグループ火曜会の先生方をはじめ、これまで私たちにご教示いただいた多くの先生方、そして私たちを日々支えてくれている齊田歯科医院のスタッフに、心から感謝申し上げます。

2019年2月

片山奈美 齋田寛之